カメラを構えることが再認判断に与える影響

○猪股健太郎¹・野村幸正²

(¹ 関西大学大学院心理学研究科・² 関西大学文学部)

キーワード：カメラ撮影・再認判断・記憶

The effect of holding camera on recognition judgment

Kentaro INOMATA¹ and Yukimasa NOMURA^{2,*}

(¹ Graduate School of Psychology, Kansai Univ., ² Faculty of Letters, Kansai Univ.)

Key Words: shooting, recognition judgment, memory

目 的

対象物を写真に収めることは、外的記憶補助として有力な方法であると考えられる。しかし近年、この方法が対象物の想起を妨害する効果があることが報告された。Henkel (2013) では、博物館のツアーにおいて、展示物の全景を撮影した場合には、そのまま観察した場合と比較して、正再認成績が低下し、対象物の詳細な情報が減衰することが報告されている。

このことから、カメラによる撮影は、外的記憶補助への依存を高めることで、かえって記憶痕跡の強度を弱めてしまい、正しい想起が妨害されるという過程の存在が示唆されている。もしこの過程が存在するのであれば、同じカメラを構える条件においても、撮影しない場合、すなわちカメラを構えただけの場合には、外的記憶補助には依存できないため、記憶成績が向上する可能性が考えられる。しかし一方で、カメラを構えるだけで撮影しない場合には、撮影するまでもないような重要度の低い対象物だと認識され、記憶成績が低下する可能性も考えられる。本研究ではこの点について検討を行った。

方 法

参加者 大学生 47 名(男性 33 名, 女性 14 名)であった。

刺激 富田・猪股(2013)で撮影された、ミニカーを異なる背景で撮影した画像 36 枚が用いられた(Figure 1)。全てのミニカーは同じ距離と角度から撮影された。

手続き 実験は集団で行われた。記銘段階の前に、提示される画像を覚えることと、記銘条件について説明がなされた。その際、刺激には含まれないサンプルの画像 3 枚を用いて撮影などの練習が行われた。記銘段階では、車名とともに 27 枚のミニカーの画像が 1 枚ずつ 5 秒提示された後、撮影に関して「撮影」「構えるだけ」「そのまま観察」のいずれかの指示が提示された。参加者はその後の 5 秒でこの指示に従った。テスト段階では、記銘時には提示されなかった 9 枚の画像を含めた 36 枚の画像が提示され、参加者はそれぞれの画像について、記銘時に提示された画像(旧項目)か提示されなかった画像(新項目)かの判断を行うよう求められた。

Figure 1. Toy car of “Leaf (Nissan)”. Note the photographs were shown in color

結 果

全ての参加者の正再認率を指標として、1 要因 3 水準の分散分析を行ったところ、記銘条件の効果が有意であった

Figure 2. Proportion of items correctly recognized as old for each encoding condition. Error bars indicate standard errors.

($F(2,92) = 4.37, p > 0.05$). 参加者ごとに車に対する主観的な既有知識の差が見られ、これが低い参加者では再認判断の成績が低い可能性が考えられた。そこで、自己評定が 4 以上の参加者に限定して同様の分析を行った(Figure 2)。その結果、全ての参加者と同様に記銘条件の有意な効果が認められた($F(2,36) = 4.19, p > 0.05$)。

考 察

本研究では、カメラを構えることが画像の再認判断に与える影響について検討を行った。その結果、カメラを構えるだけの場合には、撮影する場合やそのまま観察する場合よりも記憶成績が低下することが示唆された。これは、日常においてカメラを構えたが撮影を中断するような、対象物の重要度が低く再評価されることを反映している可能性があり、記憶成績が低下することを示していると考えられる。

ただし、先行研究で報告されたような、全体を撮影する条件とそのまま観察する条件の間の有意差が追認されなかった。その理由として、本研究で用いられた画像が単純なものであった点が考えられる。先行研究では、対象の一部を撮影することで注意や認知処理を付加されて、カメラ撮影による妨害効果が消失すると示唆されている(Henkle, 2013)。本研究においては、刺激が単調であったことで、撮影する条件でも十分に注意や認知処理が行われた可能性が考えられる。

引用文献

Henkel, L. A. (2013). Point-and-Shoot Memories: The Influence of Taking Photos on Memory for a Museum Tour. *Psychological Science*, 25 396–402.